

申込事業計画説明及び質疑応答まとめ

(1) いきいき六郷運動教室

【プレゼン概要】

東日本大震災をきっかけに東部沿岸地区の住民は移転しバラバラとなり、従来の地域コミュニティがなくなりつつある。そこで、毎月2回の運動教室を開催し、交流の場をすることでコミュニティの活性化を図る。運動教室については、講師を招いて、ストレッチ、筋トレ、脳トレ等の体力づくりとリズム体操に取り組み、高齢期を元気で安心して生活できる体力づくりを行う。また、この活動を広く知ってもらうために祭り等の地域イベントに参加し他地域との交流促進に努める。

【質疑概要】

- Q 活動の様子を写真で拝見させていただき、皆さん笑顔で頑張っている姿を見て被災地に必要な活動だと感じた。H27、H28 は仙台市の無料講座を利用していたとのことだが、その後の活動費はどのようにしていたのか。
- A H29年11月までは参加費を活動費にして六郷地域包括支援センターの無料講座と合わせて月2回活動しており、それ以降は、宮城県共同募金会（赤い羽根共同募金）の助成金と参加費500円を活動費として同じく月2回活動していた。
- Q 以前東部地区に住んでおり、現在は別な所に引っ越した方で、本活動に参加している会員は何名くらいいるのか。
- A 上飯田地区やその他東部エリアでない地区の会員合わせて7名程度いる。
- Q 収支予算書の活動資材費の内訳は。
- A お祭り等の地域イベントでリズム体操を披露する際の衣装である。（説明会後に団体へ活動資材費の使い道について確認しました。）
- Q 会員を増やすことを目標としているが、具体的にはどのくらいまで増やすのか。
- A 30人程度を目標にしている。
- Q 会員の募集を行っていく上で、会員の年齢層や住んでいる地域についてはどのように考えているか。
- A 年齢層については、活動が平日の午後なので、働いている世代は厳しいと考えており、定年を迎えた方々を想定している。地域については、特に制限はしていない。色々な地域の方に参加していただきたい。
- Q 会員は女性が多いが何か理由はあるか。
- A 今の会員は全員女性であるが、男性の方も大いに歓迎である。しかし、地域性があるのかもしれないが、男性の参加申込みはなく、厳しいと感じている。
- Q 大変すばらしい活動だと思う。まとめ役の方はご苦労されていると思うが、ぜひこの活動が広がればいいと思った。広報についてはどのような方法を考えているか。
- A 市民センター、コミュニティ・センターにチラシを配架、会員の口コミ、民生委員の方にチラシを配ってもらっている。
- Q 地域の活性化という観点から、この活動を通して、地域の人同士がその他の場所での交流に繋がっているケース（一緒に散歩に出かけるようになった等）はあるか。
- A 体操を通じて、共通の話題は増えているので、そういう意味でのコミュニケーションは

増えている。

Q 毎回講師に運動教室をお願いしているが、そのうちの何回かは会員のメンバーがリーダーシップをとって、運動教室を行うことはできないのか。

A 会長と副会長が年2回から3回、スキルアップの講習を受けているが、なかなか上達できず、毎回講師が必要なのが現状である。いずれは講師がいなくてもできるように努力していくつもりである。